

都市再生整備計画 事後評価シート

立川駅周辺地区

令和4年11月

東京都立川市

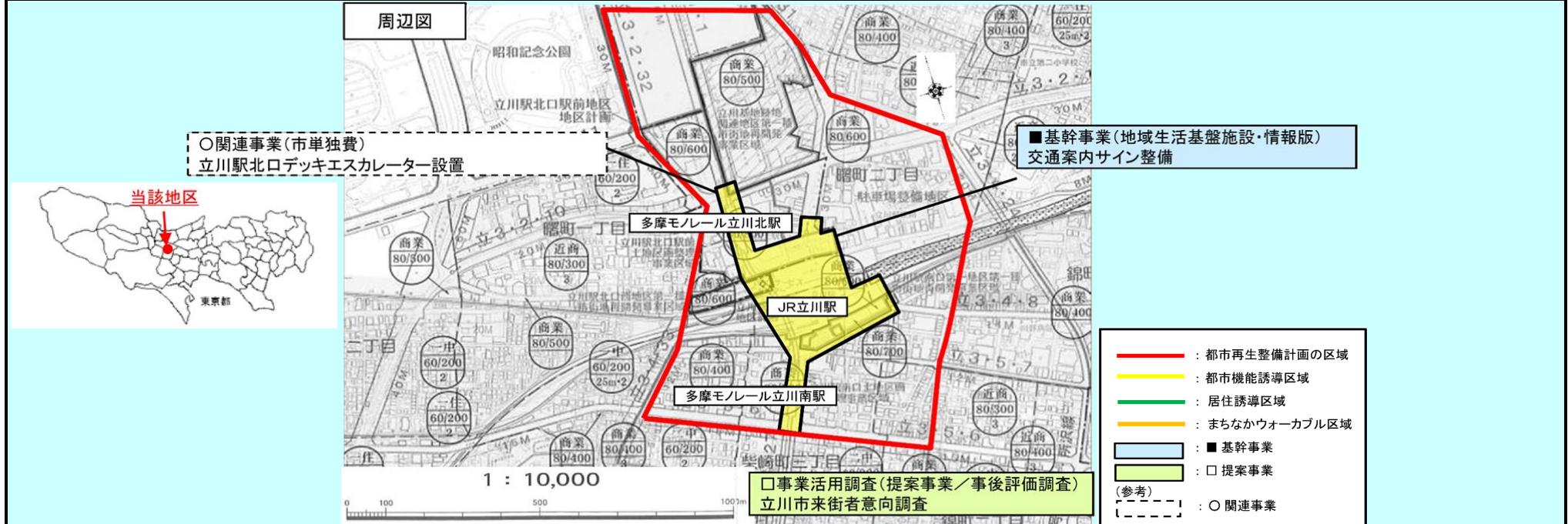
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	東京都		市町村名	立川市		地区名	立川駅周辺地区			面積	52ha			
交付期間	H31～R3		事後評価実施時期	R4		交付対象事業費	36	国費率	0.4					
1)事業の実施状況		事業名												
		当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(情報版)										
		提案事業	事業活用調査(事後評価)											
		事業名		削除/追加の理由						削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
				入札不調によりエスカレーター設置工事について令和3年度内で完了できる証明がなかったため、基幹事業から関連事業へ変更した。										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響												
		指標		従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)			フォローアップ予定期間		
		指標1	エスカレーターの設置による歩行者の回遊性向上の効果	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	あり	○	エスカレーター完成前のアンケート調査による計測であり、歩行者の回遊性向上の効果については従前値と同程度の評価となつた。エスカレータ完成後に交通量調査を行い、昇降施設利用者数の計測により歩行者の回遊性向上の効果について確認した。		実施予定なし	
		指標2	案内サインの整備による利便性向上の効果	%	H30	R3		82.5	△	なし				
		指標3		%	63.1									
		指標4		%										
		指標5		%										
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況		指標		従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)			フォローアップ予定期間		
		その他の数値指標1	昇降施設(階段、エレベーター、エスカレーター)の利用者数	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	あり	○	令和4年8月の交通量調査によると、昇降施設の利用者数が55%増加した。また、エスカレーター設置後の昇降施設利用者のうち昇り84%、降り59%がエスカレーターを利用しており、多くの来街者の回遊性向上に寄与していることが伺える結果となった。		実施予定なし	
		その他の数値指標2												
		その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	A2、A3地区開発事業の完了や新たな公的施設の建設により立川駅周辺地区のにぎわいが増しており、多くの人が案内サインを見て移動している様子が見られる。また、エスカレーターについても多数の歩行者が利用してまちを回遊している。													
5)実施過程の評価		実施内容			実施状況			今後の対応方針等						
		モニタリング	案内サイン整備時に、来街者や障がい者による実地踏査を実施し、整備に意見を反映した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
		住民参加プロセス	案内サイン整備時に、住民団体の代表も参加している立川市交通結節推進協議会にて整備の計画を立てた。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
		持続的なまちづくり体制の構築	案内サインの整備後も適切な維持管理を行い、立川市交通結節推進協議会にてサインを最新の状況とするための情報共有や内容更新の検討を行った。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			引き続き適切な維持管理を行うとともに、立川市交通結節推進協議会にて交通事業者や関係団体と情報共有や内容更新の検討を行い、ターミナルの案内サインとして、わかりやすい情報提供ができるようスマートアップを図る。					

様式2-2 地区の概要

立川駅周辺地区(東京都立川市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:ターミナル機能の強化 目標1:ペデストリアンデッキへのエスカレーターの設置による歩行者の回遊性向上 目標2:案内サインの整備による利便性の向上	エスカレーターの設置による歩行者の回遊性向上の効果	単位: %	83.9	H30	87.5	R3	82.5	R3
	案内サインの整備による利便性向上の効果	単位: %	52.8	H30	63.1	R3	75.1	R3
		単位:	H		H		H	
		単位:	H		H		H	
		単位:	H		H		H	



まちの課題の変化	交通機関の集中と公的施設・民間商業施設等の集積により、多くの来街者が当地区を訪れているため、まちの変化に対応したわかりやすい誘導サインが引き続き必要となっている。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	今後は整備した各施設について適切な維持管理に努めるとともに、まちの変化に合わせて案内サインの内容更新を行い、来街者・市民の回遊性・利便性の確保に努める。また、アンケート調査の結果や利用者の意見などを交通事業者や関係団体と共有し、ターミナルの案内サインとして、よりわかりやすい情報提供ができるようスパイラルアップを図る。